

平成 28 年度 第 1 回飯田市公民館運営審議会 会議録

■日 時 平成 28 年 10 月 12 日(水)14:00～15:00

■会 場 飯田市公民館2階展示室

■出席者 (委員)近藤委員、宮坂委員、原委員、長谷部委員、桑原委員、細山委員、篠田委員、
小林敏弘委員、木下紀委員、鳴海委員
(欠席委員)北原委員、小林賢二委員、武分委員、増田委員、
(事務局)平田館長、木下副館長

1 開会

(事務局)

- ・本日の日程についての説明
- ・本日の出席者 10 人 (定数 14 人のうち) : 過半数の参加により会議は成立。

2 飯田市公民館長挨拶

皆様こんにちは。

私は、飯田市公民館長を務めさせていただいています伊賀良公民館長の平田睦美と申します。宜しく
お願いいたします。始めに、本日の会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げさせていただきます。

本日は、公私ともご多用の中、第 I 回飯田市公民館運営審議会にご出席いただきまして厚く御礼申し
上げます。また、日頃より、皆様には、飯田市公民館の多岐に亘ります事業活動についての諮問をして
いただき、大変お世話様になっておりまして、公民館運営へのご理解とご支援に心より感謝の意を表さ
せていただきます。

また、去る 9 月 15 日・16 日に開催の第 64 回長野県公民館大会飯田下伊那大会には、多くの委員
の皆さまのご参加を戴く 400 人余の参加者のもと、2 日間とも非常に重厚な大会として成功裏に開
催できましたことを心より感謝申し上げます。内容につきましては、本日の館長会にて振り返りをおこ
ないますので割愛させていただきますが、「地域の誇りと豊かさの希求」を日本から世界も視野に入れ
て取り組む公民館活動の意義と役割を確認できた大会であったと思います。

本日は、運営審議会終了後、定例館長会の年間テーマに添い、2 地区公民館の事例発表と飯田コミュ
ニティスクールの設立に向けての懇談会を予定させていただいております。学び高め合う場として皆様
の貴重なご意見ご感想などを賜り、これからの活動に活かしてまいりたいと思います。どうぞ、宜しく
お願い申し上げます。

3 委嘱状の交付

(事務局)

- ・平田睦美飯田市公民館長より委員に対して委嘱状を交付。

4 飯田市公民館運営審議会について

(事務局)

- ・社会教育法と飯田市条例に基づき、公民館運営審議会の役割について説明。

5 自己紹介

6 役員の選任

(事務局)

- ・正副会長について腹案を示し、全員の承認で決定
会長＝長谷部三弘氏
副会長＝細山俊男氏

7 審議事項

(1) 平成 28 年度の飯田市公民館の概要について

(事務局)

- ・資料に基づき説明

―寺中構想と公民館―

(木下委員)

- ・寺中構想に関わって、平成 22 年度に飯田市公民館運営審議会から、公民館発足時の取組みの柱の一つであった産業振興にもこれからの公民館の取組みを広げる旨の答申を行った経過があるが、現在はどのようなか。

(事務局)

- ・飯田 OIDE 長姫高校の地域人教育では、たとえば松尾地区では八幡の商店街活性化の取組みなどにつなげるなど、産業視点の取組みもある。また公民館主事の人事について、税務課や市民課など市民生活の基本に関わる職場からの異動が多かったこれまでから、産業部門からの配置を要望することで、産業視点を持った公民館事業の展開を狙っており、昨年度は農業課から下久堅公民館に配置された職員が、UI ターンによる農業を生業とする市民を交えた地域振興をテーマとした学習会を組織するなどの取組みが行われた。しかし全体として産業視点を公民館事業に取り込むことは難しい。

(長谷部委員)

- ・寺中構想に立ち返るということは、産業振興に限らず、公民館の原点に立ち返るという視点である。

―高齢者と公民館―

(長谷部委員)

- ・高齢者に力点を置いた取組はどのようなか。

(事務局)

- ・運営審議会での指摘を受けて、主事会のプロジェクトの一つに、「高齢者プロジェクト」を設け、介護高齢課や包括支援センターの職員を講師に迎えた学習会などを開き、公民館として高齢者の問題にどのように関わっていくことができるのかの研究を進めており、本年度中に公民館としての学習会の開催を準備している。また本年度の飯田市公民館大会では、分科会の一つを高齢者をテーマとして計画している。

(長谷部委員)

- ・高齢者はパソコンの扱いなどデジタル化に応じられない世代である。会議資料のパソコン作成など、事務的な手伝いを公民館主事が担ってくれれば、高齢者の活動もやりやすくなる。

—飯田らしいコミュニティスクール—

(細山委員)

- ・飯田らしいコミュニティスクールの取組みの現状はどのようなか。

(事務局)

- ・もともとは小中連携・一貫教育の導入に併せてこの取組を地域で支えるために、公民館では地域と学校が連携して子どもたちを育てることをテーマとした実践や交流を進めてきた。そういう積み重ねの上に本年度中には飯田市内の 28 のすべての小中学校で学校運営協議会を立ち上げる準備を進めており、この協議会が立ち上がった学校を飯田コミュニティスクールとして指定することとしている。飯田コミュニティスクールの特徴の一つは、この学校運営協議会の構成員に必ず公民館長もしくは公民館主事が入ることとし、そのことにより学校と同じく地域の教育機関である公民館が地域と学校をつなげる役割を担うことが期待されている。

—高校生と公民館—

(篠田委員)

- ・羽場地区の地域行事に高校生がなかなか参加してくれない。高校生の地域参加の状況について知りたい。

(事務局)

- ・地域人教育がきっかけとなり、高校生と地域を結ぶ取組みは広がっている。例えば飯田高校の天文班による上郷地区の親子を対象とした天文講座を実施しているが、最初は公民館からの依頼であったが、天文講座の講師となることで生徒自身の学びにもなることが分かったことから、2年目からは天文班からの申し出で取組みが継続している。今年は橋北公民館でも天文班による講座が計画されており、地域の中で高校生が活動する姿が広がっている。

(小林委員)

- ・今年 3 月に阿智高校と山本公民館が協定を結び、山本地区の活動に高校生が関わり始めている。高校の地域政策コースの生徒たちが中心で、私に関わっている宅老所の取組みにも参加してくれた。

(桑原委員)

- ・高校生たちは自分が生まれた地域の枠で活動するというよりはもう少し広い枠の地域で動き出している。大事なのは高校生自身が関わって楽しいと思う事業が羽場地区にあるかということである。地域から動員的に参加を募る形では高校生はなかなか動かない。地域人教育のように学校が地域に参加するシステムを枠として用意することは有効である。

(篠田委員)

- ・羽場地区でもグリーンバードの活動を通して高校生が地域の活動に参加する例が生まれている。

(桑原委員)

- ・中央通のガーデンズの取組みと高校生が結ばれたように、高校生を引き付ける魅力がある事業を地域が提案できれば、高校生の地域参加が生まれる。

—社会教育コーディネーター—

(小林委員)

- ・公民館では様々な課題に取り組みを広げているが、そういう事業を進める体制はどのようなか。社会教育コーディネータが2人採用されているようであるが、臨時職員であるとすれば、正規化するような配置は必要ではないか。

(事務局)

- ・元々は社会教育指導員制度として国が人件費を負担してくれていた。現在は市が単独の予算で雇用している。

(2) 公民館を取り巻く現状について～長野県公民館大会に参加して

(鳴海委員)

- ・大変良い座談会であった。当時と今では時代が違い、必ずしも同じ活動ができるわけではないと思うが、原点はぶれずにやってほしい。

(木下委員)

- ・これまで公民館が地域づくりに果たしてきた役割を理解することができた。

(細山委員)

- ・文部次官通牒から70年目であることを記念した大会であったが、キーワードは「原点に帰る」、「地域づくりと公民館の活動をつなげて考える」という言葉にあるととらえた。昨年開催した下伊那テーマ50年のシンポジウムとも共通するが、大会が飯田で開催されたことは意義深い。飯田の公民館の発展が、全国の公民館を引っ張っていくととらえた。

(長谷部委員)

- ・400人の規模の集会であったが、参加者の大半は公民館長や主事など職員であった。公民館活動の主体である住民の参加がほとんど見られず、職員集會に終わったことが残念であった。

(桑原)

- ・公民館活動が以前は住民主体であったものがそうでなくなった背景には、上げ膳据え膳という主事の仕事の仕方にも課題があるのではないか。

(篠田委員)

- ・羽場地区の場合は、連合青壮年會が主体となって公民館の活動を支えている。

(細山委員)

- ・職員が目立つ仕事をする公民館ではなく、地域に何を残すことができるのか、ということが大事であり、それが下伊那テーマに立ち返ることの意味である。一生懸命やる方向を取り違えているのではないか。

(小林委員)

- ・現在の飯田市の公民館の活動は大変活発であり、公民館をめぐる全国の動きの中で、飯田はリーダーとしての役割を果たすことが必要である。

8 閉會

飯田市公民館運営審議委員と公民館長の懇談会記録

と き：平成 28 年 10 月 15 日

と ころ：飯田市公民館

1 公民館長の事例発表を受けた意見交換

◎事例発表

- ・ 学校と地域の連携「龍江小学校の地育力」龍江公民館 塩澤俊夫館長
- ・ ふるさと自然体験 2016 上久堅公民館 橋爪学館長

◎事例発表に対する質疑応答

(原委員)

- ・ 龍江公民館の事例をお聞きして、環境 NGO の取組の中で、環境教育を学校と連携して行いたいと考えている。学校は年間計画を立案したうえで、地域との連携を組み込んでいると思うが、どういうタイミングで相談するとよいのか教えてほしい。

(龍江公民館：塩沢館長)

- ・ 学校からの相談を受けて、地域の人たちにつないでいる。

(橋北公民館：田中館長)

- ・ 浜井場小学校では、年間 5 時間のクラブ活動を公民館がつなぎ役となって地域講師で実施している。現在は 9 つのクラブ活動に各クラブ 1 人から 2 人の講師が関わっている。毎年、年間計画を立案する際に学校と相談しながら組込んでいる。学校の先生方と話をしていると、公民館の仕組みを知らない先生方が多く、そういう仕組みを学びたいと考えている先生がいる。

(松尾公民館：勝野館長)

- ・ 松尾地区では年間 6 回 20 以上のクラブ活動を実施し、4 年生から 6 年生を対象に、地域住民が講師となり、1 クラブあたり 20 人ほどの子どもたちが参加している。私もアウトドアクラブの講師として、宝探しをゲーム化して取り組んでいる。

(桑原委員)

- ・ 龍江公民館のお助け隊の事例は、地域の人たちが学校に入っていく事例として大変新鮮な取組としてお聞きした。そういう取組が始まるきっかけを教えてください。

(鳴海委員)

- ・ 始めた当時の龍江公民館長の立場で報告したい。数年前、元竜東中学校長で当日竜東地区を担当されている飯田市教育委員会の教育支援指導主事を務めていた村松先生がつないでくれた。学校から希望する活動のテーマを聞き、地域に公募する形で結び付けた。大事なことは、地域

と学校の敷居が低くなり、大人たちが気楽に学校に寄りつけるようになることである。しかし当時公民館長会では、「大人の学びと子どもの育ちをつなげる」というテーマで、地域と学校の連携について実践や研究を進めていたが、まだまだ大人の学びが足りないと感じている。

(座光寺公民館：塩沢館長)

- ・ 学校と地域を結び付けるときに大事な視点は2つある。1つはどうやって公民館が地域と学校をつなげるのかという点、もう1つは大人の学びと子どもの育ちをつなげるという視点である。

(下久堅：松本館長)

- ・ 今年初めて実施した農家宿泊の体験という事業を通して感じたことを紹介したい。自分の住まう地域の農家に子どもたちが泊まるということは、当初保護者にとっても農家にとってもなまじそれぞれの過程を知っていることのために抵抗があった。しかし、保護者たちは農家にお世話になる前に、子どもたちに他人様の家でお世話になるための礼儀をしつけてくれたようで、びっくりするほど礼儀ができていたようだ。農家の方たちは下久堅の子どもたちは礼儀ができているとほめてくれたが、家庭の教育力が課題とされる現代、しつけのきっかけとしても農家体験は意義があったのではないか。

(三穂公民館：久保田館長)

- ・ 農家体験は3年目を迎える。受入れ農家に抵抗はない。農家への宿泊体験は、農業体験だけでなく、複数の子もたちが1軒の農家に泊まるという協同体験や、全く知らない方の家に泊めていただくという体験を通して違う家の風習を知るなどの意義もある。

(宮坂委員：三穂小学教頭)

- ・ 農家宿泊体験を通して、子どもたちはいろいろなことを学んでいる。にわたりのヒヨコの誕生に立ち会ったり、お風呂に入った後泊めていただいた農家の方に「お先にいただきました」とお礼を言う姿が見られたりしている。農家でも三穂の子はいい子だ、その後運動会で行き会った時に挨拶してくれるなど、自分の子や孫のように感じてくれるような関係ができています。今後農家の負担の軽減を考えると、農業体験のような働く体験と、泊めていただく体験を分けるなどすれば、受入れ家庭の負担が軽くなり、続けやすくなるかもしれない。

2 飯田コミュニティスクールについて

(事務局)

- ・ 平成19年から始まる地育力の取組みを通して、地域で子どもを育てる取組みが広がり始めた。その後平成23年度から始まる小中連携・一貫教育の取組みを地域で支えようということから、公民館では地域と学校が連携して子どもたちを育てることをねらいとして取り組みに力を入れ、その取組が水平展開してきた。
- ・ 例えば子どもたちの宿泊体験では、川路の通学合宿から、上久堅の集会施設への宿泊体験、三穂や下久堅の農家宿泊体験へと広がってきた。
- ・ クラブ活動については竜丘小学校のクラブ活動を公民館がつなぎ役となった取り組みがきつ

かけとなり、多くの小学校で現在は取組まれている。

- ・ 小学校の副教材作りの取組みでは、竜丘の「丘のみちしるべ」の取組みが、上郷地区の取組みに広がり、伊賀良でも取組が準備されている。
- ・ こういう実践の積み重ねを仕組みとして定着させようというのが飯田コミュニティスクールである。
- ・ 飯田コミュニティスクールは各小中学校に学校運営協議会を設置し、設置した学校に教育委員会が飯田コミュニティスクールとして指定する形である。
- ・ 学校運営協議会は現在の学校評議員会の組織を母体として機能を拡充する形を考えている。また学校運営協議会の役割は、学校運営参画、学校評価、学校支援という 3 つの役割である。飯田の特徴は学校運営協議会のメンバーに、必ず公民館長か主事を加えることで、学校と同じ地域の教育機関である公民館と学校が連携することを核にしようとしている点にある。

(下久堅公民館：松本館長)

- ・ 学校運営協議会の機能のうち、「承認」には学校経営方針、教育課程の編成、施設管理と整備という 3 つの役割を規定しているが、この機能が重いのではないか。

(事務局)

- ・ 学校運営協議会を、公民館でいう専門委員会のようにとらえてみるといいのではないか。公民館の専門委員会は、公民館長や主事と共に事業の企画や運営の責任をもつ役割がある。学校長や教委職員にとって地域住民とともに事業の企画や運営を担うパートナーとしてとらえてみるような考え方の変化が必要ではないか。

(小林委員)

- ・ 飯田コミュニティスクールの取組みに公民館長や主事が構成員となるのであれば、制度の組み立てに公民館長や主事も関わるべきではないか。

(事務局)

- ・ 公民館からは副館長が組立の協議に参加し、現場の事情や考えを伝えている。

(橋北公民館：田中館長)

- ・ 学校評議員会と学校運営協議会の機能は異なる。一つにすることにより混乱が生じるのではないか。

(伊賀良公民館：平田館長)

- ・ 学校運営協議会の構成は、学校によってずいぶん異なっている。伊賀良の場合は従来の評議員会から構成は大きく異なり、公民館長と主事が共に加わり 12 人で構成するよう準備が進められている。学校支援などの実働的な地域住民の参加は、学校運営協議会の下に位置付けられる予定である。

(松尾公民館：勝野館長)

- ・ 学校運営への参画のイメージがわからない。グランドデザインづくりなどに関わるとすればそういう取組みに対して意見できるような情報が足りない。もっと情報を共有するべきである。

(座光寺公民館：塩沢館長)

- ・ 今は形づくりの段階であり、地域と学校が連携して子どもたちを育てる中味をつくるのはこれからである。

(山本公民館：林館長)

- ・ 取組を進めるについて、ガイドラインを示してほしい。

(竜丘公民館：下平館長)

- ・ 飯田コミュニティスクールをすべての小学校に設置するとい流れは決まっていることか。

(座光寺公民館：塩沢館長)

- ・ 館長会として、飯田コミュニティスクールの取組みに公民館としてどのように関わっていくのかを考えるための、情報共有を行うための機会が必要である。

3 その他

(木下委員)

- ・ 20 数年前、私は教育現場で全国共通の教育を進めてきた。それは飯田を忘れる教育、飯田を捨てる教育であった。飯田コミュニティスクールは、教育が中央集権から地方分権へ進んでいく流れととらえることができる。地域が目指す子ども像を明らかにし、持続可能な学校をつくっていく。そういう目指す子ども像が、本日の公民館長の発表の中にすでに表れている。下伊那テーゼを発信した飯田市は、これからは飯田コミュニティスクールを全国に発信していく時代であり、公民館に期待するものは大きい。

(長谷部委員)

- ・ これまで公民館運営審議会では、飯田市全体の公民館の動きについての報告を受けた論議が地夕診であった。本日は各地区公民館の実践という公民館の活動の中味についての報告を受けた協議となった。本日の発表から、飯田の公民館は大変健全な取組が進められているということを実感した。コミュニティスクールについては、学校側が公民館をどう見ているか、という視点が大事になる。本日は各公民館長からコミュニティスクールに関わり活発な発言が相次いだ。こういう論議ができていく公民館長会は大変健全である。